

教職科目履修前指導の試み

— 「教師力演習」を事例として—

益 田 亮 英

An examination of the teaching training prerequisite course:
“Acquiring Competence in Teaching”

Ryoei Masuda

1 はじめに

本学では2010年度（平成22年度）入学生から小学校教諭1種免許状の取得が認可された。認可の時期が平成22年1月になったことで、高校への周知が遅れ十分なPRができなかったが、2010年度（平成22年度）入学生のうち30名近くが免許取得を希望した。育てたい小学校教師像を目標に育成に取り組んでいるところであるが、その取組みの一つとして、1年生を対象に「教師力演習」を開設した。カリキュラムにはない科目外科目として、課外としながらも時間割上に位置づけ、教職課程科目履修のための意識確立を目標に授業を展開した。教職課程科目の履修前指導を実施することにより、教師としてより高度な資質能力を身につけるための素地の形成を図ることとした。

2010年（平成22年）10月、東京都教育委員会は「小学校教諭教職課程カリキュラムについて」¹を策定した。策定の主旨は①実践的な指導力を身につけた教師を新規採用したい。②「実践的な指導力」「学術的知見の現場への活用」「コミュニケーション能力」「組織の一員として仕事のできる力」「今日的課題への対応力」を備えた教師を新規採用したいとしている。タイミングよく発表された東京都教育委員会の「小学校教諭教職課程カリキュラムについて」を参考に「教師力演習」の取り組みを振り返りたい。

2 「教師力演習」の展開

(1) 科目設定の主旨

課外科目「教師力演習」は、教員免許を取得し教職に就くことを希望する学生に対して、教職課程の事前指導として、学校の第一線で活躍している先輩教師や管理職の講話を取り入れ、教師の魅力ややりがいについて語ってもらう、また、教師としての必要な資質について考え、今後の教職課程の学習の中で何を学ばばよいか、どのような学生生活を送ればよいかなどの視座を与え

ることを目標としている。更に、2年次以降の学習への意欲の醸成と取り組む姿勢の確立を図り、自然科学や人文科学の一般教養を高めるとともに討論やディベート、小論文等さまざまな形式の授業を行い教員採用試験に向けて早期に明確な目標を立て主体的に取り組むことのできる姿勢を育成するなど、教職へのキャリア支援と教師力向上を目指す講座として位置づけ、単位は認定しないが必修科目としての性格を待たせてある。毎回レポートの提出を求め、出席とレポートの提出状況、GPAなどの評価を2年次以降の教職課程履修の条件としている。

「教師力演習」を通して、マニュアルに頼らず自分の力で正しく判断し行動できる力、自ら必要性を感じ目的意識を持って授業に参加するとともに、大学外における様々な活動に積極的に参加する態度を培い明確な目標を持って、生き生きとした学生生活を送ることができるように支援し、単に教員免許の取得だけが目標にならないように、GPA等によるハードルを設けることによって、教職課程の学習に取り組む意欲の向上を目指している。

(2) 授業の展開

授業の指導計画は表1のとおりであるが、一部講話のテーマなどに変更はあったもののほぼ計画通りに実施できた。「教師力演習」の展開については、小学校専門委員会（構成員5名）が企画し外部講師の選任や依頼、面接や集団討論などの指導を担っている。

1) 受講者の内訳

「教師力演習」の受講者は1年終了時に25名となった。内19名が2年生になって小学校教諭免許を希望した。

学科・専攻	男（人）	女（人）	計（人）
キャリア・イングリッシュ専攻	2	5	7
こども専攻	3	8	11
心理臨床学科	2	5	7
計	7	18	25

2) 小学校教諭免許の他に取得希望教員免許状

種 類	希望者（人）
中・高英語教諭免許	7
特別支援学校教諭免許	15
幼稚園教諭免許	1
小学校のみ	2

3) 「教師力演習」が目指す教師像

「教師力演習」では、①強い使命感、②小学校の全教科の授業ができる力、③生徒や保護者との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を備えた小学校の教師を目指している。小学校教諭免許の取得を希望して「教師力演習」を受講している学生は、キャリア・イングリッシュ専攻、こども専攻、心理臨床学科の学生である。それぞれの専門学科の学習を収めた上で教員免許を取得することになる。具体的にはキャリア・イングリッシュ専攻の者は中・高英語教諭の免許を併せて持つことにより、英語が堪能で英語指導のできる小学校の先生、こども専攻の学生は保

表1 「教師力演習」指導計画2010年度

	月 日	テーマ	講義内容	担当	
前 期	1	4月14日	ガイダンス	・注意 ・人生を考える ・鋤崎 ・福田	
	2	4月21日	講話	・科目選択についてガイダンス ・教職を目指す学生の心構え ・岡本 ・鋤崎	
	3	4月28日	面接1	個人面接(意思確認等)	鋤崎、福田、豊田、益田
	4	5月12日	教師の仕事1	教職と法規	益田
	5	5月19日	教師の仕事2	教師の義務	鋤崎
	6	5月26日	小論文	小論文の書き方と、練習	廣田
	7	6月2日	★教育現場が学生に期待すること 1	小学校教育の現場から	熊本市立大江小学校校長 池邊利昭氏
	8	6月9日	教師への道	教員免許取得から任用まで	益田
	9	6月16日	★先輩の講話1	現在第一線で活躍している先輩 の体験談を聞く	熊本市立西原小学校校長 尾谷青子氏
	10	6月23日	★小学校音楽指導者の講話	小学校音楽指導の実態と課題	平成音楽大学講師 岩津昭夫氏
	11	6月30日	★一般教養(人文科学1)「英語」	教職に必要な一般教養	壺溪塾 緒方啓司氏
	12	7月7日	★一般教養(人文科学2)「国語」	教職に必要な一般教養	壺溪塾 武蔵いずみ氏
	13	7月14日	★小学校英語指導者の講話	小学校英語指導の実態と課題など	大津町立大津小学校校長 前川嘉宏氏
	14	7月21日	★先輩の講話2	現在第一線で活躍している先輩 の体験談を聞く	熊本市教育委員会指導主事 松永裕子氏
	15	7月28日	★小学校体育指導者の講話	小学校体育指導の実態と課題など	文徳中学部長 村上京子氏
後 期	16	9月29日	面接2	個人面接	鋤崎、福田、廣田、益田
	17	10月6日	★一般教養(自然科学1)「数学」	教職に必要な一般教養	壺溪塾 永野龍彦氏
	18	10月13日	★一般教養(自然科学2)「理科」	教職に必要な一般教養	壺溪塾 永野龍彦氏
	19	10月20日	★一般教養(社会科学1)「歴史」	教職に必要な一般教養	壺溪塾 富永浩行氏
	20	10月27日	★一般教養(社会科学2)「地理」	教職に必要な一般教養	壺溪塾 本田真弓氏
	21	11月10日	★一般教養(社会科学3)「公民」	教職に必要な一般教養	壺溪塾 後藤和孝氏
	22	11月17日	模擬試験1	学内模試1	益田
	23	11月24日	★小学校教諭の日常	若手小学校教諭の体験談	熊本市立田底小学校教諭 鬼塚清香氏
	24	12月1日	★教職教養	人権教育	県退職校長会長 中村貞夫氏
	25	12月8日	★教育現場が学生に期待すること 2	教育行政の立場から(教育委員会)	菊陽町立菊陽西小学校校長 田中真治氏
	26	12月15日	集団討論1	テーマを決めて班毎に実施	益田
	27	1月5日	集団討論2	テーマを決めて班毎に実施	益田
	28	1月12日	★教育現場が学生に期待すること 3	幼稚園の立場から	ルーテル学院幼稚園園長 尾田明子氏
	29	1月19日	模擬試験2	学内模試2	益田
	30	1月26日	まとめ	面接とアンケート	益田

★は外部講師

育士や幼稚園教諭の免許を併せ持ち幼小の連携ができる先生、心理臨床学科の学生は、特別支援学校教諭の免許と併せて、子どもの一人一人の個性に応じたきめ細かい支援のできる先生を目指すなど、専門学科をベースにして教員免許の開放制の特色を維持している。その上、小学校の全教科の授業ができる力、特に音楽指導、理科実験の指導ができる力を身に付けさせることとしている。学科・専攻の専門性と小学校教諭免許との関係は図1のとおりである。

2010年度入学生の小学校教諭免許希望者19名のうち、キャリア・イングリッシュ専攻の5名全員が中高の英語免許を、心理臨床学科の6名も全員が特別支援学校の免許を併せて希望している。こども専攻については8名中6名が支援学校教諭免許を希望しているが、2名だけが小学校教諭免許のみの希望となっている。

「教師力演習」は①の使命感を育てるために、専門科目の授業をはじめ教職関係の授業に目的意識を持って意欲的に参加するとともに、有意義な学生生活の過ごし方などの示唆を与えることを狙いとして実施している。

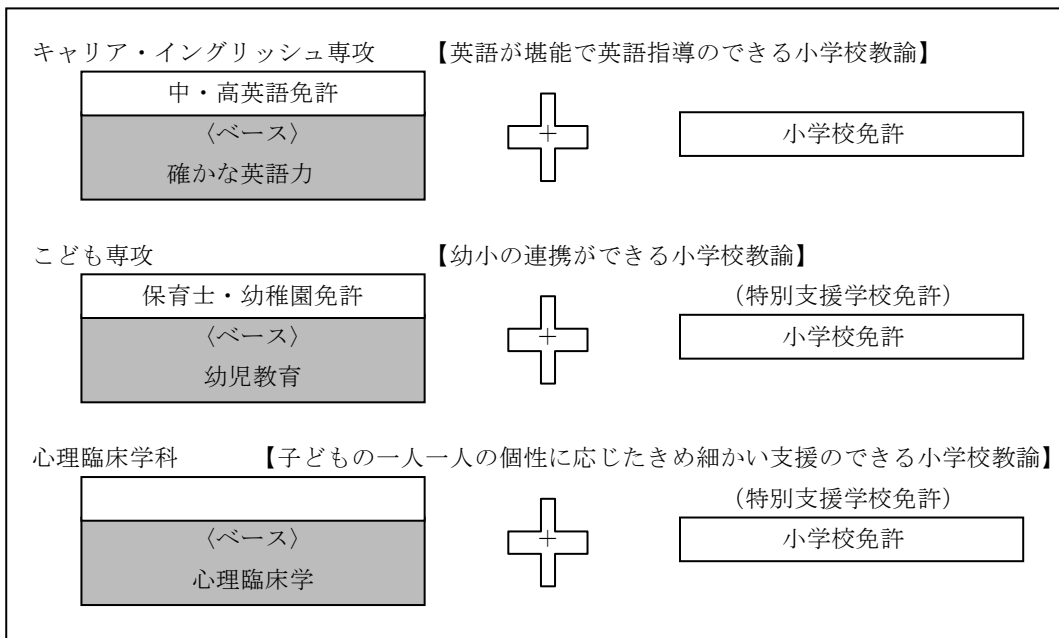


図1 学科・専攻の専門性と小学校教諭免許の関係 (2010年入学生の場合)

2 「教師力演習」のアンケートから

「教師力演習」では毎時間レポートの提出を求め、学年の終わりにアンケートを実施した。アンケートでは記述式に質問に答えてもらったが、「教師力演習」を受講したことに関して大変満足度の高い評価をしていることがうかがわれる。

以下、質問と学生の回答の概略である。(一部レポートの感想も含む。)

(1) 「教師力演習」を受講してよかったこと。

「教師力演習」終了時の個人面接及びアンケートから学生の反応を見ると、「教師力演習」を受講してよかったと思うことの第一は、現場で活躍している先生の生の声を直接聞くことができたことを挙げている。小学校の先生の本当の仕事の内容や仕事に対峙するときの先生の気持ちの持ちようなど、これまでの学ぶ側からは計りしえない事柄をいくつも教えていただいたことへの感動が読み取れる。主な感想は以下のとおりである。

- ・講師の話聞くことにより、教師としての在り方や、今どんな人材が求められているか理解できた。
- ・先生方の活動の様子を聞いて教師の魅力を感じるとともに教師の大変さがわかった。
- ・様々な角度から教師の魅力を開き頑張ろうという気持ちが強くなった。
- ・講話の他に一般教養の学習も中highで勉強したときより深く理解することができ興味を持つようになった。
- ・1年次から採用試験対策を聞いたことがとてもありがたいと感じた。益々小学校の先生になりたい。という気持ちが強くなった。
- ・採用試験の様子や教育事情が理解できた。
- ・講師の先生の好意で小学校の現場体験をすることができた。
- ・小学校の先生がどういう仕事をし、どのような気持ちで取り組んでいるか理解できた。
- ・様々な知識が増え考え方や見方が変わった。

(2) 外部講師の講話以外の内容で役立ったこと

「教師力演習」では外部講師の講話のほかに、集団討論、ディベート、学内模試など様々な形態の授業を展開した。中でも、教育関係の時事問題をテーマにしたディベート形式の討論がインパクトを与えている。

- ・集団討論（19人）
- ・学内模試（17人）
- ・塾講師による一般教養の授業（8人）
- ・個人面接（4人）
- ・教員採用試験などについての各種説明（1人）
- ・小学校体験（1人）

講師の講話で印象に残った言葉（レポートより）

様々な体験を通した具体的で説得力のある外部講師の話聞いて、レポートには感動の文言が並んでいるが、その中から一部紹介したい。

- ・忙しくても頑張れたのは、大好きな子どもたちに囲まれているから、支えられているから。
（鬼塚清香先生）
- ・幸せな子を育てるのではなく、どんな境遇にいても幸せになれる子を育てたい。（尾谷青子先生）
- ・教師は子どもたちから学ぶ。素直な態度が教師には必要。（岩津昭夫先生）
- ・教師は約束を守る、社会のルールを守る。（中村貞夫先生）

- ・健康であることは礼儀作法の第一番である。愛するとは子どもに寄り添うこと。(村上京子先生)
- ・嫌な子どもがいても、その子の良さを探せば見方が変わる。(尾田明子先生)
- ・教師は生涯をかけて教師になる。得意分野を持った個性豊かな教師になる。(池邊利昭先生)
- ・生徒にとっては、みんな先生。若いから新人だからは通用しない。(松永裕子先生)
- ・教師としての出会いを大切に、教師はめぐりあいで成長する。(田中真治先生)
- ・学級づくりが一番、間違っても笑われないクラス、思ったことが言えるクラス。(前川嘉宏先生)

(3) 教師として必要な資質・能力について理解できたか

この問いについてはただ単に「理解できました。」とか、「できたと思います。」と答えたものが多かったが、具体的に学生自らの言葉で表したのもいくつかあった。

- ・どれだけ大変なのかは大体わかるがまだよく理解できない。小学校の教員を目指すものとして今やらなければならないことは何かを明確にしたい。
- ・自分自身の人間性を高めるとともに得意な分野を伸ばしたい。
- ・子どもに魅力を持ってもらうためには他人に負けない能力が必要であると分かった。
- ・教師は子どもの成長を支えるものであるから教科の知識や経験及び様々な資質が必要と分かった。
- ・大人としての判断力を持って生徒を心から愛すること。

(4) 教師という職業に魅力を感じるようになったか

多くの学生が、高い競争率を突破しなければならないという採用試験のハードルを認識しながらも、数々の講話を聴くうちにますます教職への魅力を感じている。数多くの体験談等を通して教職はやりがいのある職業であると思うようになっていくと同時に、責任の大きさや悩みも多い職業でありプレッシャーも感じると答えた者もいた。

- ・教師はやりがいのある仕事であり魅力を感じる (23人)
- ・責任がありプレッシャーを感じる (4人)

[主な感想]

- ・毎回異なった感動を受け、教師の大変さ、素晴らしさ、やりがいを知ることができた。何よりも「子どもが好きだ。」という気持ちが大切だと思った。
- ・小学校の先生は大変そうだと思う、子どもの人生を左右してしまう責任の重い仕事だと思う。しかし、子どもと関わっていくことは楽しそうなので小学校の免許を取りたい。
- ・教職に就くことの難しさや、大変さも教えてもらったが、それ以上に教師という仕事の素晴らしさや楽しさを教えてもらったので、これまで以上に教師という職業に魅力を感じた。
- ・教師には生徒の命を守るという大きな責任があることを知った。
- ・魅力を感じるとともに悩み、考えるようになった。
- ・採用試験について興味がわいてきた。多くの分野を学ばなければならないのでプレッシャーはあるが意欲が出てきた。

- ・講師の先生方が自分の仕事に誇りを持っていることがよく伝わり、大いに魅力を感じるようになった。
- ・同じ目標を持つ人との交流も増え、関係の本も読むようになった。家族とも教師になることに対しての会話もできるし両親も応援してくれる。
- ・不安が多くあるが若い先生の赴任先での子どもとの関わりについて聞くと素晴らしいと思う。

(6) 「教師力演習」を受けてから勉強や大学生生活に変化はあったか

「教師力演習」の授業を受けて実際の大学生生活に変化があったかを訪ねたところ、授業等に積極的に参加し、より充実した生活を送らなければならないという意識はほぼ全員に芽生えている。しかし、行動が伴ったかについては疑問が残る。

- ・授業態度が積極的になったり、勉強するようになった（10人）
- ・やる気が出てきた（11人）
- ・その他（3人）

(7) 2年次以降の大学生生活をどのように送りたいか

ほとんどの学生が具体的な目標を挙げ2年次以降の意欲を示している。

- ・授業に積極的に参加し、採用試験の勉強もしたい。（15人）
- ・子どもたちと触れ合うボランティア活動などに参加したい。（2人）
- ・小学校などで体験をしたい。（3人）
- ・目標を失わず頑張りたい。（2人）
- ・留学をしたい。（1人）
- ・専門の勉強に力を入れたい。（1人）
- ・様々な体験がしたい（小学校の活動、ボランティア）。（1人）
- ・採用試験に向けて勉強をしたい（中学校や高校の教科の復習や採用試験の過去問を勉強する）。（1人）

(8) 採用試験対策のための勉強を始めたか

県の教員採用試験の10倍の競争率を突破するためには早くからその準備に取り掛かることが必要であるが、採用試験対応についてはまだまだ意識が低く、必要性は感じているものの実際に取り組んでいるものはわずかである。

- ・始めた（6人）〈冬休みから（2人）時々やっている（1人）〉
- ・始めていない（17人）〈春休みから始める（7人）、ニュースや時事問題に関心を持つようになった（3人）〉
- ・未回答（2人）

3 「教師力演習」の成果

(1) 目的意識の確立

「中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会（審議経過報告）」（平成23年1月31日）²の教員

養成の在り方、教員養成改革の方向性によると、「教員養成を教職に入る前の高度な専門性と社会性、実践的指導力を身につける最初の段階である」としている。しかし、大学における教職課程は2年次から学習する科目が多い。したがって1年次は特別な目的を明確にしないまま過ぎてしまうのが現状である、そのような中で「教師力演習」は教職を希望する者に対して教育とは何か、望ましい教師像とは何かということについて考える機会を与え、専門教科に関する学ぶ姿勢や目的実現のための学生生活設計の機会を与えたこと、すなわち、学びたいという気持ちを育む環境を作ったということは評価できる。

教育課程審議会第3次答申（平成11年12月）では、いつの時代にも教員に求められる資質能力として『一般に「専門的職業である「教職」に対する愛着、誇り、一体感に支えられた知識、技能の総体」といった意味内容を有するものと解される』とある。これは昭和62年答申及び第1次答申（平成9年7月）を踏まえたものであるが、特に、第1次答申では『資質能力は「素質」とは区別され後天的に形成可能なものと解される。』と明記されている。後天的に形成される教師の資質は、どのような目的意識を持って学生生活を送るかにかかってくるものと思われる。そのような意味で外部からの刺激を受け、早い時期に意識を高めることができたのは意義深い。1年次終了時のアンケートによると、全員が「教師力演習」を受講してよかったと思い、目標を明確にして2年次以降の学習に対して意欲を示し学生生活に対する満足度を高めている。卒業後の進路目標が明確になりより一層の意欲を持って学生生活を送ることが期待できる。

1年次に教職に対しての十分なキャリア形成の心構えができ、今後の学生生活に向き合う姿勢が整ったということは、学生の出身高校や地域社会に対する大学の評価を高めることにも繋がった。「教師力演習」の指導の一環として、夏季休暇中に出身高校を訪問し、大学生生活の現状を説明することを課題として与えた。学生はそれぞれの母校の担任や進路指導の先生を訪ねたわけであるが、卒業生が学生生活に満足感を持ち、生き生きとした姿で母校を訪問することは高校の進路指導担当の教員に喜びと安心感を与え、大学の取り組みがプラスに評価されることになった。また、各学生が意欲的な大学生活を送っていることは、学生の保護者にとっても満足できることであり、このことは口コミによって大学の評価を高めることにもなった。このように「教師力演習」は大学のPRという二次的な効果まで生むということになった。

(2) 東京都教育委員会「小学校教諭教職課程カリキュラムについて」を参考に

東京都教育委員会が求める教師として最小限必要な資質・能力の3領域のうち、領域①の「教師の在り方に関する領域」については、学習活動の全領域で培われるものであり、各人の意欲と姿勢でその成果は異なるものと思われる。本格的な学習に取り組む前の導入部分でいかに意識を高めておくかが大切ではないか、そのような意味で「教師力演習」は成果を上げている。領域②の「各教科等における実践的な指導力に関する領域」は領域①を理解したうえで専門科目をはじめ体験等を実践しながらより実力アップが図られる。さらに領域③の「学級経営に関する領域」では児童・保護者との信頼関係やコミュニケーション能力が求められるところであるが、教育の意義や教育者としての十分な使命感を持つことによってその関係は築くことができる。

「教師力演習」履修後のアンケートの結果から、東京都が求めている小学校教師としての最小限必要な資質・能力を学部段階で学生に身につけさせておくための、教職科目の履修へ向けての心構えは確保できたと思われる。目標を明確にした上で、今後の大学生生活を送ることになるので東京都が求めている教師像にさらに近づくことができるのではないかと。今後は、教職科目の履修

と並行した多くの体験や実践を通して確かな教師力を身につけさせたい。

4 「教師力演習」に続くキャリア支援

「教師力演習」はあくまでも教職を目指す学生への意識付けを目的にした科目である。「教師力演習」のアンケートで全員が2年次から現場で様々な実践を体験したいと答えており、この授業で培われた意識を大学生生活へ定着させるためには新たな支援が必要である。2・3年次にその活動の定着を図るために「児童教育演習」を設け、長期休暇中の小学校活動の手伝い、放課後教室、児童館、学童保育など様々な体験の場を用意している。「教師力演習」と異なることは科目として時間割に位置づけたものではなく、個別指導の形をとっている。「児童教育演習」は、教室で講義として展開される科目ではなく実践活動を支援するサポート体制である。1年次の「教師力演習」に続くものとして講義で得られる知識を体験として学び、教師としての実践力の向上を図り、小学校、児童館、学童保育、放課後教室、ボランティア、インターンシップなど各種活動の事前事後指導を中心に学生のキャリア形成を支援するものである。様々な体験の場を開発し、学生に実践活動の場を提供し、その実践を通して多くの課題を経験することによってより実践力のある教師を育成したい。しかしながら「児童教育演習」はスタートしたばかりであり、現在は実践の場の開発に努めているところである。

5 児童教育コース

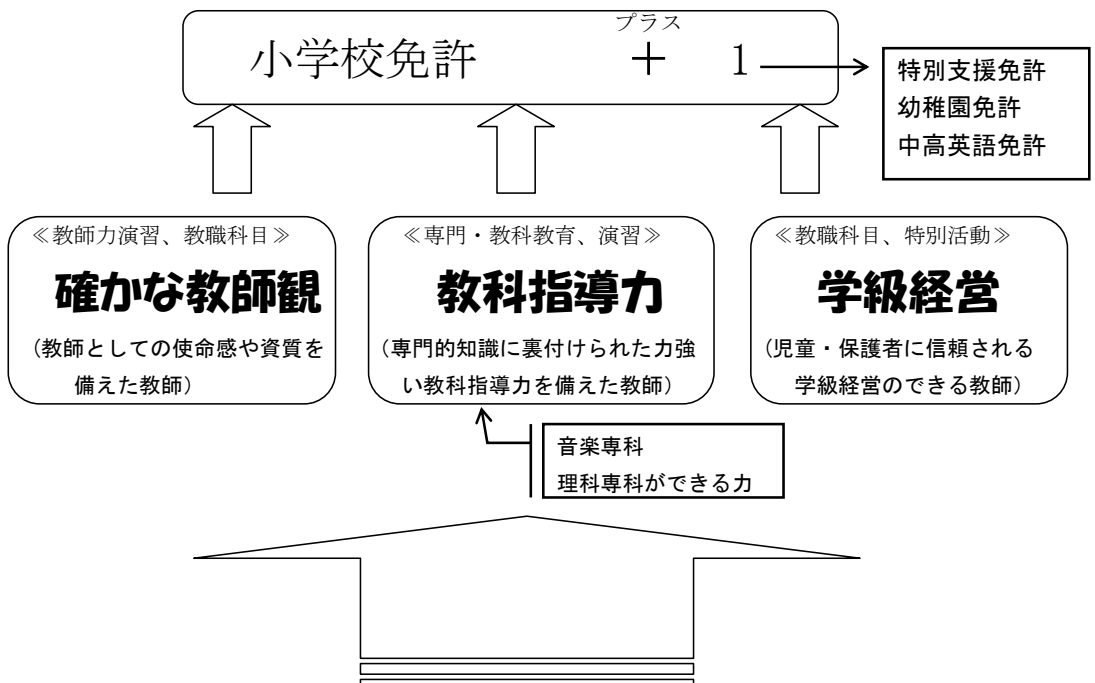
本学では、2010年度（平成22年度）入学生から小学校教諭免許取得が可能になったわけであるが、更に2011年度（平成23年度）から児童教育コースを開設した。小学校免許取得に特化したもので、目指す教師像は、各県がそれぞれ求めている教師像や、教養審の答申を参考に図2のように定めた。①教師としての使命感、②教科指導力、③学級経営力の3つを柱とし、「理科実験」や「音楽演習」を開設して実技指導に力点を置いている。児童教育コースでは、理科や音楽を得意とする教師、理科や音楽を専科として担当できる教師の育成を目指している。加えて、小学校教諭免許の他に、幼稚園教諭免許、中・高英語の免許、特別支援学校の免許のいずれかを取得できるように配慮し、幼小連携や小学校英語、あるいは学習障害など個性の強い子どもにその子の個性にあった指導のできる教師の育成を目指すこととした。小学校教諭免許は他の学科、専攻からの取得も可能であることは従来と変わらない。しかし、他の学科、専攻からの小学校免許取得希望者には、GPAと「教師力演習」への出席とレポート提出などによるハードルを設け、免許取得だけを目的とするような安易な選択を避けている。児童教育コースに限らず、小学校教諭免許取得への指導の特徴は、科目外学習でキャリア支援を行うところであり、それが「教師力演習」と「児童教育演習」である。教師の質の保障が問われている中で、本学の特徴は小学校教諭免許の取得を希望する学生には完全に門戸を開いていることである。そして1年間の事前教育を実施したうえで進路の決定を促すなど十分なキャリア教育を実施したうえで次に進むというステップを踏んでいる。

小学校教師へのキャリア形成支援

《目指す教師像》

実践的な指導技術(力)を備えた 児童教育のスペシャリスト

(幅広い教養と高度の専門的知識・特技を身につけた実践的な指導者)



4年 採用試験対策	教育実習・卒業研究・教職実践演習 (インターンシップ)			教職支援室 (採用試験対策・面接・模擬授業・模試等)	学務分掌による支援 (広報・学生支援・教務・実習・就職)
3年 実践力養成	児童教育演習 (実践体験)	特別研究・専門科目・教職科目	音楽・理科演習		
2年 基礎力養成					
1年 意識の確立と意欲向上	教師力演習 (職業意識の啓発)				

「教師力演習」：討論やディベート、講話など様々な形態の授業を通して教師としての資質の向上を目指す。

「児童教育演習」：小学校、児童館、学童保育、放課後教室などの様々な体験と事前事後指導を通して実践力を養う。

図2. 児童教育コースの目指す教師像

5 おわりに

私たちは小学校教員を目指す学生に対して総合力を身につけさせることを目標としている。困難な課題に直面したとき、冷静に判断し的確な決断ができる力を養っていただかなければならない。そのためには、教職科目の様々な学習のみならず、早期に学習の動機づけを行い明確な目標を持って学生生活を送ることができるようにサポートしたいと考えている。その第一歩として「教師力演習」を設定し実践した。1年間の授業を終えた学生は、これまでに述べたとおり、「教師力演習」の授業内容について高い満足度を示し、今後の学生生活についての明確な目標と意欲を持っている。今後更にフィールドワークなどを取り入れ様々な経験を重ねることによって自ら課題を発見し、その解決に努めながら実力を養い、教師という夢の実現に向かって突き進むことは間違いないであろう。

「教師力演習」は、授業の中でいろんな立場の外部講師に具体的に教師についての情報を提供していただくなどキャリア支援の一翼を担っていると思われるが、今後は、教員採用試験の突破に向けて更に具体的な支援を行っていきたい。2年次以降は「教師力演習」を「児童教育演習」と発展させ、小学校や児童館、学童保育、放課後教室等の学校現場や社会体験活動を通し実践力を身につけさせたい。

また、小学校における外国語活動が必修化され、すべての教師が外国語活動の授業を担当することになった。英語力のある小学校教師を育てるためのカリキュラム構成も今後の課題である。

今年度になって、教職科目「教職の研究」を選択した2年生60名にアンケートを取った。この中には「教師力演習」を受講した21名が含まれている。「教師にはどのような資質・能力が求められるか」という問いに対して、「教師力演習」受講者とそうでない学生との間に多少の違いがあった。「教師力演習」を受講した学生の回答には、「使命感、豊かな知識と人間性、コミュニケーション能力、自分自身をより高めていこうとする向上心、授業をするための専門的な力、クラス経営能力、教師に対する熱意、豊かな感性や発想力、チャレンジ精神等々」といった外部講師の先生方から聞いた文言が多数書かれていた。大学の4年間で教師としての完成品を創りあげることが不可能である。それぞれの教育現場で様々な経験や研修体験などを経て教育者として完成してもらいたい。

最後に、「教師力演習」は外部講師の講話に重点を置いており、多くの教育関係者の方々の協力や支えなくしては成り立たない。次代を担う優秀な教育人材を育てるという思いで快くご協力をいただいた熊本市教育委員会をはじめ関係の皆様感謝を申し上げます。多くの期待に応えることのできる人材を育てて送り出すことにさらに精進したいと考えているところである。

注

1. 東京都教育委員会「小学校教諭教職課程カリキュラムについて」（平成22年10月）

www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/pr101014s/pr101014s_3.pdf より

- I 東京都教育委員会が求める教師として最小限必要な資質・能力（到達目標と内容）

領域①「教師の在り方に関する領域」

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| (1) 教師の仕事に対する使命感と豊かな人間性 | (2) 教師として必要な教養 |
| (3) コミュニケーション能力と対人関係力 | (4) 学校教育に関する法令等と学校教育の役割 |

(5) 学校組織及びサービスの厳正

領域②「各教科等における実践的な指導力に関する領域」

- | | |
|-------------------|---------------------|
| (1) 学習指導要領 | (2) 教材研究・教材解釈と授業づくり |
| (3) 単元指導計画の作成及び改善 | (4) 指導方法・指導技術 |
| (5) 児童の学習状況の把握と評価 | (6) 授業力向上と授業改善 |
| (7) 特別支援教育 | (8) キャリア教育 |

領域③「学級経営に関する領域」

- | | |
|-------------------|----------------|
| (1) 学級経営の意義と学級づくり | (2) 集団の把握と生活指導 |
| (3) 児童理解と教育相談 | (4) 保護者・地域との連携 |

2. 中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成23年1月31日)